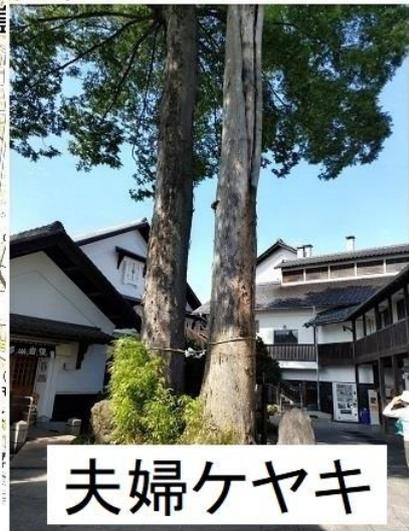


幾代会観察会(2023年7月)のまとめ



- 日時: 7月2日(日)
- 集合場所: 拝島駅改札を出た場所・スタンドガラス側
- 集合時間: 10時10分
- 観察場所: 拝島大師と多摩辺通り
- ポイント: 拝島大師のフジと石川酒造のケヤキ

●ルート : 拝島駅～立川バス・10:25発(拝島大師下車・料金 180 円)～多摩辺
通り～拝島緑地広場～水鳥公園～どうどうの滝～石川酒造～拝島駅

●持ち物 : 弁当・飲み物・ルーペ等の観察用具

●参加者: 鹿子生(初)、太田、山下(初)、林(初)、大村、須崎、羽深、深川(初)、渡
辺健司(初)、渡辺弓子(初)、山村(初)、桜井、武藤、浅井、土方、岡、中部、宇津木
(敬称略、申し込み順)と越前の 19名

●下見 : 6月 17日(金) 4名

◆7月の植物観察会のポイント 2点

●ジャガイモとサツマイモ

ジャガイモ

ナス科 原産 南米のアンデス インドネシアのジャワ島・ジャカルタから 転じてジャ
ガタラ芋がじゃがいもになった。

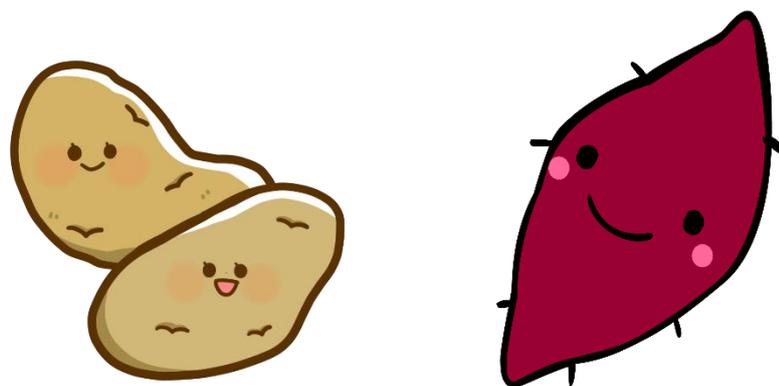
サツマイモ

ヒルガオ科 原産 中南米 江戸時代に沖縄県からを経てサツマ国(現・鹿児島県)
に伝わったので薩摩の芋でサツマイモになった

ジャガイモは茎でサツマイモは根が肥大した理由

ジャガイモは茎が肥大

- ① 光が当たると緑化 茎は葉と同じ緑の色
- ② 表面から根が出ない
- ③ くぼみから芽が出てその付け根から根が出る



サツマイモは根が肥大

① 根は緑に成らない

② 表面からヒゲ根が出る

③ くぼみが無く収穫したときに茎に近かった部分から芽が出て下部から根が出る

茎であっても根であっても新しい同じ個体が生まれるのは無性生殖で挿し木、差し芽、等が有り受粉しないで増やせる。

雄と雌がかかわる雄性生殖 植物は雄蕊(雄)と雌蕊(雌) 雄蕊の花粉を雌蕊の先端に付ける

大根は上が茎でしたが根 上は緑に成るが下は陽をあてても白いまま 境目は？だが

一般的には上 3 分の一が茎



●藤の花のしくみ

フジはマメ科フジ属の蔓(つる)性落葉本木。別名は牧野富太郎命名の**ノダフジ**で、藤の名所「野田」(現、大阪市)に由来。

世界には中国のシナフジと北米のアメリカフジがあり、「藤」はシナフジ(紫藤)由来。

日本にはノダフジとヤマフジがあり、

蔓の巻き方(以下、ノダフジとヤマフジの順で)

上から見て右巻き vs. 左巻き)、

小葉(無毛・草質で多め vs. 有毛・厚めで少なめ)、

花色(紫中心に濃淡 vs. 紫)、

花序の長さ(長 vs. 短)、

花の咲き方(つけ根から先端へ vs. 大きめの花が同時に)、

種子の色(褐色 vs. 黒褐色)、

分布(本州・四国・九州 vs. 同様だが京都・

奈良・滋賀除く)、

香り(さわやかなグリーンフローラル vs. 華やかなホワイトフローラル)で異なる。

葉は互生で**奇数羽状複葉**(先端部の小葉が1枚)。花期は4~6月で、20~90cm、時に2~3mもの長い総状花序にマメ科共通の**蝶形花**(ちょうけいか)をつける。

虫媒花として、花序が垂れ花の向きが逆になる不都合を**花柄の半回転**で適応進化。

花弁は5枚で、黄色い蜜標のある旗弁1枚、雌しべ1本と雄しべ10本を内包する舟弁(しゅうべん)2枚とそれを支える翼弁2枚から成る。

キムネクマバチが翼弁に止まり蜜を吸う間に雌しべと雄しべが露出し花粉をつける仕

組み。果期は10～12月で、10～19cm長・有毛・固い豆果が裂けねじれ、秒速10mの速さと強度で扁平の種を飛び散らす。(藤の花のしくみは大村さん記)

◆散策路の植物

7月の参加者は19名と16年続いてきた幾代会で初めての大人数。感謝です～～

チョット緊張気味の初参加者7名と会員、11名をグループ分けして拝島駅南口からバスに乗り込み、目的地の拝島大師で下車。



千歳のフジ

奥多摩街道沿いの高大な南大門で改めてご挨拶。

都の天然記念物の千歳の藤を会員のORさんは藤色の上下のウェアで手書きの資料を使っての説明。トツテモ良く調べて貰え、感激です(力作はポイント参照)

日吉神社と拝島大師内の「おねいの井戸」など水と樹木を観察。羽村市在住のOKさんがすかさず昭島の水について羽村や他の市町村も例に出して水道料を中心に説明。さすが主婦です。

大きな円形の東屋の北側に用水が有り、目の高さにケヤキの葉。

初参加者から「先ほどの大イチョウからケヤキが生えていた」そこでケヤキの3mm位の小さな果実を観察しながら、秋に成ると葉ごと落ちる風散布を説明。



拝島公園のケヤキ



アシズリノジギクの観察

Uさんは説明を聞きながら用水に落ちているゴミ拾いをしてサツパリ。何時もながらのボランティア精神は素晴らしい。

拝島大師のジャンボ東屋でグループごとに座りちょっと早めのお昼をとりホット一息。

トイレを済ませ奥多摩街道を西に進み、ナツツタや花後に果実の出来たブラシの木、新葉が赤いアカメガシワを観察。ほどなく歩くとお庭拝見のU邸。

重厚な冠木門をくぐると右側に新設の野草園。

差しあげたキレンゲショウマが今にも咲きそうでした。アラアラ元気で良かった。



台杉とキレンゲショウマ

「今は花が少ないのよ」と言っても、なかなかお目にかかれない何十種類もの野草が花を付けていました。溢れんばかりの解説と左右に植栽された植物にただただ感動！

黄色い蕾を付けたモクゲンジ(ムクロジ科)が屋根の上から天に向かいひときわ目につきました。

門から多摩辺通りの出口までずっ～～と続き、100m近く有りそう～～、出口側の河岸段丘の斜面に数本の梅と葉柄が赤いアンズが植栽。

久しぶりにお花ちゃんの元気な顔と饒舌を聞いて満足。

東京都の名湧水57選に指定されている龍津寺の湧水を見、啓明学園の南側を流れる用

水沿いを西に進軍。



モクゲンジ

「青梅よりこの辺から眺める奥多摩の山の形が良いのよ」との声。

秋川が多摩川と合流する水鳥公園を通過。

多摩川緑地福生南公園では夏の陽射しを避け、園路沿いに植栽された木陰沿いを歩きました。

幹には縦に割れ目が有るムクノキ(ニレ科)、幹が剥がれ落ちそうでガサガサしたトウカエデ(ムクロジ科)、ビー玉ぐらいの青い実をつけたセンダン(センダン科)を観察。

名前負けしそうな「どうどうの滝」を見て、最終観察地の石川酒造に到着！

天を突く夫婦ケヤキの脇で水分補給をして一息つき、全員で記念撮影。

ここで初参加者からの感想。

・歩きながら色々な植物を見られてよかった。植物観察にはいろいろな視点があることが分かり、楽しかった。

視点の違う観察が出来て良かった。

よい思い出作りが出来た。

草花の種類が深いところまで学べてよかった。次回も参加したい。

皆さんの知識の多さにびっくりした。

花を上から見させてもらうなど、細かく観察できたてよかったが、よく覚えていない。

臼井さんのお庭を見せてもらったが、植物の多さにびっくりした。



どうどうの滝



石川酒造にて

ジャガイモとサツマイモの違いの話は勉強になった
少しずつ覚えていきたい。
全てはわからないが、同じ植物を見るにも視点が違う。
余りに詳しいのにびっくり。知らないことが多い。
色んなものが見れて楽しかった。
知識の多さにびっくり。虫になった気持ち等々でした。

沢山の思いを語って戴きありがとうございます。
何時も話していることですが名前を覚えなくても興味を持って植物等を見て貰えれば
嬉しいです。
暑さも加わり、何時もよりチョット遅くなり失礼しました。
来月も又、お会いしましょう！

(越前 記)